

婦一人と文藝云

— 文藝とは何ぞの

千葉亀

日本の歴史を讀んで来ると、神武天皇の御

世に入りの神代に、婦人の和歌が見え居る。

それは沼河姫の歌といふので、

つちほこの、神の命、ぬえくさの、めにしあ

は、我が心、浦洲の鳥さ、いまこは、

千鳥にあらめ、後さうは、たとふにあらむ

を、いのちは、なせたまふ、いしたふ

や、あまはせ使、ことの、かたふことも、

こをば、

こが全文で、日本婦人の和歌とし

てなく、婦人としこの文藝の如め、

たあよと云はれ、

二の日は八千代の神なる男性の和歌に答へた

よのて、沼河姫は八千代の神は大國主の神の

一、超、超、超、超、沼河姫の宗に著か

れ、超、超、超、超、今日、超、超、超、超、

城、沼河姫の社、ありとの事であるが、